# 瓦谷山

瓦谷山だより

発行日　2011年12月吉日
発行人　（宗）真光寺
　　岡本和幸
印　刷　現代社
編　集　（宗）真光寺

問い合わせ先
（宗）真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
http://www.shinko-ji.jp/
○上総自然学校HP
http://www.shinko-ji.jp/satoyama/
○お寺ブログ【瓦谷山たより】
http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/

vol.18

# ごあいさつ

東日本大震災被災者の皆様は、震災後始めての冬を迎えます。寒さの厳しい東北に、一日も春が早く訪れるよう願うばかりです。

遅すぎた感はありますが、十月に東北地方の被災地を訪れる機会を得ました。宮城県仙台市亘理町から、海岸沿いに岩手県大槌町まで、大本山永平寺で共に修行した同安居の仲間を訪ねながら、海岸沿いを北上してまいりました。これまでさまざまに報道されてきた大きな町も、無惨という言葉でしか表現できない状況でしたが、マスコミが報じることのない小さな浦々に点在していた集落の、未だ瓦礫の撤去も終わっていない状態を目の当たりにしたときには、本当に胸が詰まりました。しかしながら道路などのインフラ復旧は徐々にではありますが進んでおり、町全体を埋め尽くすユンボの響きからは、復興へと突き進む人たちの確かで力強い息吹を感じました。

私は千葉県宗務所長の重責を拝命しておりますことから、震災発生後に千葉県内寺院の被災調査とお見舞いのため、千葉県内で被害が出た香取市、銚子市、旭市などの地域を視察いたしました。十一月に再び同地を訪れると、かつて震災でがたがたになっていた道路はきれいに整備され、傾いていた電柱や津波に破壊された川の護岸なども急ピッチで整備されつつありました。また、津波で築かれた瓦礫の山に埋め尽くされていた海岸沿いの集落に、新しい建物が次々に建築されていく光景を見て、人間の力はすごいものだと思いました。激甚被災地である東北の復旧には、まだまだ相当の時間が必要です。しかしながら必ずそれが成し遂げられると確信しています。

人は働くことで生活を整え、身を整え、心を整える動物だと思います。一鍬一鍬、一畝(うね)一畝、自ら耕し、額に汗して得た幸せこそ本当の幸せだと思います。自らの行いが自らの幸せを作り上げるとするならば、私自身がどのような方針の下に、どのような行いを積み重ねるのかが重要だと思います。願いと祈りは人生の羅針盤です。私の行いの方針を決めます。正しい願いと希望を心に秘め、それを燃料とし、羅針盤にして、少しずつ努力を重ねる日送りが大切なのかなと思います。どんな困難なことがあっても、羅針盤さえ間違っていなければ、どこかの港にたどり着くことができるのではないでしょうか。

真光寺では「寺のある暮らし」プロジェクトを進化させ、『田舎のお寺に泊まろう』「里山満喫プラン」「のんびり修行プラン『日帰り坐禅・写経体験プラン』の三つの企画を推進していきます。上総自然学校も「食」に関するイベント、「生きもの観察会」などの新しい企画を始めます。皆様のご参加をお待ちします。

また年始には、元旦からご祈祷を受け付けております。家内安全、所願成就、車の祈祷など、お気軽にお申し付け下さい。皆様のご参詣を山内一同、心よりお待ちしております。

合　掌

住職　岡本和幸

## ご寄進者ご芳名

為　御本尊修復

金　参拾萬円　平城美智子　様

金　壱万円　高吉　竹松　様

ご寄進頂き心より御礼申し上げます。皆様のお名前は記名し、仏像の中に奉納致します。今回ご寄進頂ました中で『檀信徒』『縁の会』の諸精霊位牌を新調させていただきました。

合掌

# 行事報告

## ◇山門大施食会〔檀信徒〕

八月九日　お盆行事恒例の山門大施食会が行われました。近隣の諸老師、住職含め僧侶十三名にて修行いたしました。

法要の様子

山門大施食

## ◆縁の会施食会〔縁の会〕

七月七日・八月七日　縁の会施食会が行われました。八月の施食には約百二十名のご参加をいただき、書院内に施食棚を設けられず、特設舞台に棚を設けて猛暑の中修行いたしました。

縁の会施食会

特設舞台の施食棚

## ◆寺のある暮らし秋

九月十日～十一日　田舎のお寺に一晩泊まり、ゆっくりとした時間を過ごしていただく『寺のあるくらし』。残暑の中、里山散策・農作業・夜参・朝の坐禅・朝課等和やかなひとときを過ごしました。

農作業　（大根を植えました）

朝の坐禅

稲こき

住職と鍋を囲んで懇親会

## ◇秋季彼岸法要〔檀信徒〕

九月二十五日　秋の彼岸法要を行いました。法要後には、津軽三味線演奏者『浅野　祥』氏の演奏会が行われました。

彼岸法要

演奏会のようす

## ◆第一回縁の会総会〔縁の会〕

十一月三日　今回初めての縁の会総会、真光寺フェスティバルを行いました。詳細につきましては次頁にて報告いたします。

浅野　祥　氏と檀信徒の方々

# 縁の会総会報告

十一月三日（木・祝）、第一回真光寺縁の会総会を開催いたしました。総会の様子と、その際お知らせした内容をご報告いたします。

■法要

午前十一時より書院にて本尊上供（ご本尊様へのご挨拶）と、月例供養（十一月に亡くなられた方々のご供養）を行いました。その後総会への準備中、書院前の芝生地にて書家、土井伸さんによる大筆のパフォーマンスを行いました。

土井 伸氏による書のパフォーマンス

■総会

今後の伽藍整備と平成二十二年度の会計報告を行いました。今後の伽藍整備については、

①第三期までの樹木葬墓苑の整備計画（現在は第二期まで整備済み）
②全体で千二百区画を予定していること、
③旧本堂の解体とその後の普通墓地の整備、
④観音堂（位牌堂）裏に本堂を建設したい旨、

の説明をいたしました。

平成二十二年度の会計報告については、収支計算書総括表と貸借対照表総括表を配布し、

⑤収入報告
⑥支出報告

を行いました。

今春に実施いたしました樹木調査と、墓参時の鉢植えの植付けについての報告をいたしました。樹木調査は、樹木葬墓苑地を里山状態の植生に回復させる試みをもって管理、運営していることから、これらの管理が適正かどうかを五年～十年おきに調査を行い、今後の方針に反映させることにしております。今回は第一回目の調査の報告となります。調査の結果、

⑦現在の墓苑の状態は、クヌギ・コナラに代表される高木の広葉樹林に、サクラを中心とした花木が混在し、亜高木にモミジ類が群生する「森の赤ちゃんから子供」の状態ということです。密度については約四メートル間隔の疎林の状態です。また今後は、

⑧現状の疎林の状態をしばらく維持し、第二期区画については低木類が不足しているので、植樹祭を通じて植林密度を上げていくこととなります。

⑨長期的には各樹木が成長し、視界や歩行を妨げるようになった場合や、著しく暗いイメージになる場合は積極的な剪定、さらに伐採更新を検討する旨をご報告致しました。

さらに墓参時の鉢植えの植付けについて、これまでに隣地はみ出しや、里山の樹木葬に似つかわしくない植物の植え込みに対する苦情を頂いています。当山では、以下のようなルールを設けました。

⑩今後も鉢植えの植付けは行っていいものの、花を植える場合は最大でも碑の周囲約六十センチメートル四方に納め、区画外にははみ出ないよう十分配慮すること

⑪花は一年草に限ること、⑫隣地はみだしや、ルール外の植え込みなどについては、その都度当山のほうで撤去することをお願いしご報告致しました。

総会の様子

■質疑応答

当山からの説明の後、皆さまから質疑をいただきました。

Q　三十年から四十年で、植木を伐採とあるが、その際、根っこはどうなるのですか？

A　里山の木（クヌギ・コナラなどの広葉樹）は六十年ほどすると枯れてしまうので、根元から切り、株にします。そこからひこ生えが出るのでそれを育てます。根っこは抜きません。森の景観木というのは照葉樹や、山桜のことで、山桜で長命なものは四百年もつものもあり、そういったものは残していきます。

Q　法要のときは送迎があるが、墓参など時も対応してもらえるのですか？

A　千葉からカピーナ号という長距離路線バスが出ています。ドイツ村まで来るので、そこまでお越しになればお迎えにあがります。またドイツ村以外のＪＲ袖ヶ浦駅、袖ヶ浦バスターミナルも申し込み制での送迎を行っております。

Q　ペットは埋葬できますか？

A　埋葬できます。

Q　墓地は石屋のものと聞いたことがあるのですが、本当ですか？

A　墓地は石屋のものではありません。そもそも寺の境内地あるいは公共の場所でなければ墓地としての許可を受けることができません。寺によっては、石屋が管理しているということはあります。

Q　線香をお供えする場所は桜の苑の前ということで承知しているのですが、着火するのはどこですれば良いですか？

A　桜の苑の前の線香たて付近でかまいません。以前、森の苑で線香を許可していた際に小火がおこり、以降は森の苑の中では火を使うのをご遠慮いただいています。

■昼食

総会後、参列者にお弁当を配布し、山内各所でお弁当を開いていただきました。

■法座

法座とはもともと説法を聞く場所のことを指す言葉ですが、当山では車座になってみんなでお話しをすることを法座とご案内しています。僧侶が進行役に、約二十名のグループで三十分ほどの時間で行いました。近くにお住まいの方がいらっしゃったり、出身地が同じだったり、また樹木葬を選んだ動機が同じだったりと、共通点も多く見られ、和気藹々と進んでいきました。

■書家　土井さんによる「書」のリクエストコーナー

法座と同時並行して行ったのが、土井さんによる「書」のリクエストコーナーです。会話しながらリクエストの字を綴り、それをプレゼントとして差し上げていました。土井さんには、その他、山内各所に書を飾っていただき、現在でも山内に飾っております。当山にお越しの折には、ぜひご覧いただければと存じます。

■津軽三味線　浅野祥ショー

浅野祥さんは、現在慶應義塾大学の学生で、尚且つプロの津軽三味線の奏者です。間に挟むお話も若者らしく歯切れ良く、そして面白おかしく大変な盛り上がりを見せました。最後は、「津軽じょんがら節」で締めくくり、一際大きな歓声が上がりました。

浅野 祥 氏による津軽三味線

■記念品抽選会

最後は当山からの記念品の抽選会を行いました。

今後は来年以降、毎年十一月三日を「真光寺縁の会総会、真光寺フェスティバル」の日とし、寺と会員、そして会員同士の縁と親睦を深める会を開催する予定です。

# 上総自然学校（里山再生活動）

上総自然学校では、現在およそ一町歩（約一万平方メートル）の谷津田でお米作りをしています。その内九反はコシヒカリ、残る一反は餅米と古代米を育てています。今年はコシヒカリで二六四〇キログラムのお米が収穫できました。予測ではもう少し収穫できるはずでしたが、やはり今夏の雨量の少なさによる水不足が影響したようです（干上がったことのない溜池の水が干上がってしまい、池の底が割れるほどの水不足でした）。

また、お米の残留放射能測定でも、ヨウ素・セシウム共に検出されず（検出限界値10ベクレル／kg）、無事出荷できることになり、一時はどうなることかと思いましたが、ほっと胸をなでおろしました。今回の原子力発電所事故の問題で、放射性物質が身近な問題となり、これまであまり表だって話題にされてこなかったエネルギー政策に関しても、多くの人が「本当にこのままでいいのだろうか？」と社会を、又は自身の生活を顧みたことと思われます。

上総自然学校及び真光寺での里山保全活動はそういった問題に直接答えを提示できるようなものではありません。しかし、長年に渡り人々が築いてきた里山の文化に触れることによって、何かしらのヒントを得たり、助けになることができる場所であると考えております。またその様な場所であり続ける事の大切さを感じた一年でした。

9月　稲刈りにて

## 上総自然学校イベント

### ◇冬の里山体験

『お餅つき』
・一月二十八日(土)　十時～十三時

『手作り凧上げ』
・二月二十五日(土)　十三時～十五時

〈参加費〉五百円（保険代込）

### ◇谷津田のお米作り

『開墾』
・三月十日(土)　十時～十五時

〈参加費〉大人二千円
小学生千円（保険代込）

※ご参加頂くにはお申込みが必要です。ファックス・電話・メールにてお申込み頂けます。（連絡先は最後のページに記載あり）

## 里山米　販売しています！

【品種】こしひかり
【農薬】いもち病予防の種子消毒。田植えから収穫まで田んぼでは農薬は使用していません。
【肥料】有機肥料
【精米】一時間かけて低温で自家精米
【価格】玄米　五百五十円／kg
白米　六百円／kg
【申込】ファックス・電話・メールにてお申込み頂けます。（連絡先は最後のページに記載あり）

☆玄米の放射線測定結果（自主検査）
ヨウ素・セシウム134・セシウム137　検出せず
（検出限界値　10ベクレル／kg）

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

## 稲刈り

刈り出したら止まらない子供たち

地元のかみのおじさんも参戦！

## 草取り

今年から田車(中耕除草機)投入！

おしゃべりしながら手で草を抜く

田車の通ったあと

## 自然観察会

連結しているイトトンボ

カブトムシ見つけた～～～

## 収穫祭

檀家さん達の野菜販売。新鮮！！安い！！おいしそ～！！

新米でできた新米家族♡

ガテン系作業大好きチーム

田植え→草取り→稲刈りと参加のご家族。

新米７ｋｇゲット！

新米おにぎりいただきま～～す♪

# 真光寺日記

〔曹洞宗可睡斎と三河の旅〕

去る十一月六日より一泊二日にて、住職含め十九名の参加を頂き、曹洞宗可睡斉と豊川妙厳寺へ団体参拝にまいりました。火防（ひぶせ）のパワースポットである静岡県可睡斎にてご祈祷、二日目は竹島弁天、豊川稲荷を拝観しました。

今回、旅だよりをいただきましたのは、お檀家の小沢広子さんです。お寺の旅行、団体参拝旅行と聞くと、少し堅く、難しそうなひびきが感じられるかもしれませんが、小沢さんのおたよりから、なごやかで和気藹々とした旅行であることが感じられることと思います。

## 団参旅行に参加して

真光寺の団体参拝旅行に参加された皆様お疲れ様でした。あっという間の二日間でしたね。

出発の日の朝は小雨が降り一時はどうなるのかと心配しましたが何人かの雨男に、何人かの晴れ女、晴れ女の人が多かったせいか、お天気も快方に向かい良かったです。

一日目は、静岡県にある曹洞宗可睡斎というお寺に行って参りました。東海道一の禅の修行道場と言われているそうです。可睡斎という漢字が難しくやっと覚えられるようになりました。可睡斎では到着した後、まず精進料理をいただきました。日本一の精進料理を作ると言われている、以前総持寺の典座（食事を司る役職）をされていた方が今はこちらで料理を作られているそうで、味も盛りつけも上品でとてもおいしく頂きました。また、山内のどのお堂も立派で、ご祈祷の時には転読大般若※と言われる、僧侶の方々がお経の本を流れるような早さでパラパラと何冊もめくられる儀式があり、初めて見るその光景に魅せられるものがありました。そのまま愛知県に入り、夜は三河湾を一望できるホテルに宿泊しました。夜の宴会も楽しく皆様と和気あいあいと愉快に過ごせたひとときでした。

二日目は晴天に恵まれ、竹島弁天と豊川稲荷に行ってまいりました。竹島弁天では、強風にあおられながらも約四〇〇メートルの竹島橋を渡り、八百富神社を参拝し天然記念物でもある周囲六八〇メートルの島を散策しました。

次は三大稲荷と言われる豊川稲荷に行きました。実は豊川稲荷の事を曹洞宗妙厳寺というお寺と聞いて驚いてしまいました。境内には大きな鳥居が幾つもありますし、お堂の前には狐様の阿吽の像がありますので、やはり雰囲気は神社のようです。案内していただいたボランティアの方が楽しくユーモアを交えて話をしてくださり、境内を楽しく周ることができました。お賽銭の額はいくらがいいのかというお話の時に、ご縁＝五円がいいですがしかし、「五円以上の賽銭を・・音のでないひらひらした賽銭が仏様は好き」と言われ思わず笑ってしまいました。

縁の会の皆様とも楽しく過ごさせていただきありがとうございました。これからもこの縁を大切にして良いご縁で結ばれてゆけますようによろしくお願い致します。また、この旅行を企画していただいた皆様ありがとうございました。この次の旅行でも皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

真光寺　檀家　小沢広子

※転読大般若　六三〇年頃、玄奘三蔵がインドから様々な経典を持ち帰り、四年の歳月の後漢訳したものを『大般若波羅蜜多経』という。その数六百巻。転読とは真言等を唱えながら経本をアコーディオンのようにパラパラとめくって、一巻を読誦したことにするもの。

可睡斎本堂前にて

## あとがき

真光寺では、檀信徒と縁の会の皆様が合同での行事はこの団体参拝旅行のみです。また住職が同行することにより寺院拝観等は一般旅行では体験ができないようなことや、さらに夜には普段あまり交流の少ない檀信徒と縁の会の皆様が住職を囲んでの楽しい懇親の場を設けております。

この旅行を通してお寺と檀信徒、縁の会の皆様がよい仏縁で結ばれますよう毎年計画いたしますので、来年もたくさんのご参加をお待ちしております。

今回寄稿いただいた小沢広子さん、同行いただいた皆様、ご参加ありがとうございました。

# 修証義に学ぶ

## 信仰する

「さて、恒例になった感のある真光寺の仲間の紹介ですが、今回は生き物ではなく、ユンボといわれるパワーショベルとダンプカーのお話です。

平成六年、私が真光寺に入山した当初は、旧本堂には排水溝が無く、排水はすべて流しっぱなしでした。建物の床下にも水が入り込んで、土台が腐りかけていました。台所だけは小さな池に排水を溜めて、自然に土に浸透するようになっていました。私たちが住むようになると、一回お風呂を使っただけで池はあふれ出し、砂地の当地ではまわりがドロドロになってしまいます。そこでスコップで溝を掘って、コンクリートのU字溝を埋める作業をいの一番にやりました。これは大変な重労働でしたが、手で持ち運べるU字溝は小さなもので、満足できるものではありませんでした。その後、台風で裏山の木が倒れてきて、チェーンソーを買ってきて切ったのですが、切った木を動かすことができません。ひと抱えもある杉の木の総重量は一トン半もあるのです。そんな状態の中でどうしても重機が必要と思い、中古の安価なものを探してもらってユンボを買いました。館山の現場でボロボロになるまで働いたパワーショベルでしたが、以来六年間お世話になり、真光寺を整備していく上でもっとも貢献した機械でした。そのユンボと一緒にダンプも買い、二台セットでよく働いてくれました。当時、寺域整備の一環で、六百坪の大駐車場を造っておりました。廃品の石版をもらってきて土留めを作りユンボで土地をならし、もらってきた鉄鉱石のくずを敷き詰めたり、どの作業でもユンボは大活躍です。元々ボロボロのユンボでしたから次第に両方のキャタピラーは壊れて、土を動かすよりユンボを直す時間の方が長くなって苦労しました。猛暑が続いた平成十二年の夏は、炎天下のなかで作業をしていると頭がくらくらっとして、これはいかんと思い作業を中止するといった毎日で、命の危険を感じるほどでした。駐車場は檀家さんが手伝ってくれて、素人二人で作りました。その当時、本堂の改修工事も進めました。こちらは大工さんに頼んで、第一期は平成十三年五月から七月いっぱいかかりました。真光寺旧本堂を知っている方はわかると思いますが、当初自分で木材を買い、ご本尊様のまわりや廊下などを自分で直したり、少し増築したりしました。しかしたった6年、道具も知識もない素人がやった仕事は、早くもガタがきはじめました。きちんとほぞを切って、梁は穴を開けてストンと入れればいいのですが、穴をほじるのはとてもめんどくさい作業で、すぐに木を組みたくなってしまいます。ですからほぞは三センチくらいしかほっていませんでした。当然強度が足りませんから、その分四方八方から釘を打ちました。しかしやはり素人の仕事です。すぐにあっちがギシギシこっちがギシギシと鳴りはじめ、サッシは歪んで動かなくなったりしてきました。

そこで思い切って本堂を全面改修することにしたわけです。自分が何ヶ月もかかって直したのですから断腸の思いでしたが、やはりプロの仕事はすばらしく見違えるような旧本堂になりました。だいいち材料からして違います。私はまったくの素人で、それまで一度も大工仕事などやったことも見たこともなかったのですから、たとえば材木を買うにしても、なんでもいいから安い木を買ってきました。しかしプロにはここはこの木、ここにはこんな木でこの幅というノウハウがあり、まさに適材適所で使っていきます。しかも技術も専門の機械もありますから、できばえが違うのは当たり前のことです。

## 職人修行と永平寺の生活

毎日来る大工さんとお茶を飲みながら話をすると、いろいろなことを教えられます。ある日、修行時代の話を聞きました。昔の大工さんは小さい時から親方の家に住み込んだりして修行をはじめ、最初から何年かはとにかく掃除とかんながけばかりをやらされるそうです。なぜかというと、昔は電気かんななどありませんし、材木も今のようにきれいに製材されていないから、かんなをかけないと水がしみ込んで木が長持ちしません。だから全部の木にかんなをかけて使ったそうです。毎朝現場に入るとかんなをかけて、十時と三時のおやつ、十二時のお昼の休憩時間にもかんなの刃を研いでいたそうです。もし昼寝なんかしていようものなら、ひどく怒られたし、仕事中も無駄話をしていると、後ろから親方がそっと近寄ってきて曲尺で叩かれたそうです。ともかくそうやって何年も何年もただかんなをかける修行からはじめて、少しずつ親方から仕事を教わっていきます。

小さい時から叩き上げた職人というのは、暑い日が続いて現場が蒸し風呂のようになっていても、暑いとか疲れたとは言わないそうです。工事がまもなく完成するというときに、一人の大工さんが足場から落ちましたが、幸い体は無事でした。その職人さんは痛いとも言わず、落ちた自分が悪いんだと、何もなかったかのようにまた自分の仕事をはじめました。次の日に現場に来たときに足を引きずっていたというので、本当は相当痛かったのだと思います。しかし職人は現場に入ったら痛いなんて言わない。現場に入ったからにはそこは自分の戦場ですから、淡々と自分の仕事をこなしていくだけだというのです。やはり小さいときから染み付いた職人根性というのは違うなと思いました。

昭和六十年三月十七日、私は大本山永平寺に上

しました。何もわからない中、とにかく袈裟行李、坐蒲、網代笠などを持ち、手甲、脚絆をつけて永平寺に向かいました。永平寺に着くと、まず木の板を三回たたきますが、誰もでてきません。しばらくすると先輩の雲水さんが出てきて、「何しに来た、帰れ帰れ」と言われます。私もそう簡単に帰るわけにもいきませんから、だまって待っています。そういうやりとりを何度かすると、やっと中へ入れてくれます。しかしお寺の中に入れてもらってからも何度も帰れと言われ、修行に臨む決意を試されます。

それほど決意をしなければならない永平寺の生活はどういうものかというと、三時半に起きて、坐禅をして、朝のお勤めをして朝ご飯を食べて、作務をして、お昼のお経をあげて、お昼ご飯を食べて、作務をして、晩のお経を上げて、晩のご飯を食べて坐禅をして、十時頃には寝るという単調な生活で、ただただこういう生活を毎日繰り返すだけです。はじめはこの単調さが苦しくてしかたありません。それ以上につらいのは、最低限の食事しかとれないということです。朝はお粥、昼は麦ご飯に一菜、夜は二菜です。はじめのうちは猛烈に飢えます。ご飯の盛り具合でけんかになったり、落ちているものを拾って食べたり、盗み食いをする者まで現れます。飢えるということは恐ろしいことで、何も考えられなくなって、食べ物のことだけしか頭にないような状態にまで追い詰められます。しかし不思議なことに三ヶ月くらいたつと体が慣れて、野菜だけでも太れるようになっていきます。身体が少ない栄養を一生懸命に吸収できるようになるのでしょうか。

とにかく無我夢中で永平寺の生活を毎日こなしていくと、半年くらいで坦々とした生活が普通に出来るようになります。そして毎日疑問もなく、つらくも感じずに日が過ぎてゆくのです。それが永平寺の修行です。おそらく道元禅師様が生きておられたときも同じだったと思います。道元禅師様は、悟りは求めるのではなく、とにかく行ずることだといわれます。日々坦々とやっていきなさい、そうすればおのずと悟りと一体になるのだというのです。それが曹洞宗の基本的な教えであり、修行ということです。

大工さんも、朝起きてご飯を食べて時間までには現場に行き、現場に行ったならば自分のやるべき仕事をやる。時間になったら昼ご飯を食べ、お茶を飲む、四時五十分くらいになったら片付けはじめ、現場をきれいに掃除したら家に帰る。毎日この繰り返しです。こうして坦々と仕事をしているだけなのだと思います。そこには不平不満、愚痴の入る余地はありません。

現代の感覚では、職業というのはお金を儲けるための道具としかとらえられないようです。仕事をしている時間は他人から拘束されている時間で、それ以外が自分の時間といった感覚です。

しかし本来の職業とは、生き方の選択という意味あいが強かったのではないかと思うのです。大工という職業を選択したら、坦々と木と向き合い、自分のやるべきことをしているのだなと感じました。

サラリーマンという職業も、企業に入社することで、毎日同じ時間の電車に乗って出勤して、やるべき仕事をして帰るという人生の選択をしているのです。定年を迎えれば定年後の人生という枠の中で人生を選択し、老いれば老いたという枠の中で人生の選択をし、病気になれば病気という枠の中で人生の選択をしてやるべきことを坦々とやればいいのではないかと思うのです。

しかしそういうはいかないのも、また現実です。職業選択の自由があまりなかった時代と違い、今は選択肢が無数にありますし、たとえばお坊さんも大工さんも、お寺の経営や会社の経営という視点に立てば、お金を度外視することはできません。家族を養うのに六百万円儲けなくてはいけないから、こういう仕事はできないといった具合に、お金を中心として人生選択をせざるをえなくなってきていますから、なかなか難しいことは事実です。

会社が倒産しないように経営するため、多少手を抜いたり、相手をだまして材料費を浮かしたりしなければならなくなって、それが見つかると右往左往してしまうモラルのない商売のやり方が昨今横行しているのも、結局のところはお金を多く得るためで、これも坦々と仕事に向き合うという姿勢が失われていることの証なのかもしれません。

## 道本円通（どうもとえんづう）

『普勧坐禅儀（ふかんざぜんぎ）』という道元禅師様が中国からお帰りになってはじめて書かれた文章のはじめに、「道本円通（どうもとえんづう）いかでか修証（しゅしょう）をからん。宗乗自在何ぞ（しゅうじょうじざいなん）工夫を費やさん」ということばがあります。この世界はすばらしい縁の力で組み合わされていて、本来さとりも修行も、人生の苦しみも迷いもないというのです。動物や植物は坦々とやるべきこと

をやり、死ぬべきときがくれば死んでいきます。人も同じ事で、一生懸命人生について考えなくとも、生きて死ぬという自然の摂理にまかせればなんということはないのですという意味です。

永平寺の修行がそうであったように、人が最低限度の欲望しかもたなければ、自然のままの命を生きつくして死ぬことになんの問題もないのです。『普勧坐禅儀』は「全体はるかに塵埃をいず」と続きます。あるべきものはすべてそのままに、はるかに人間の意識を超えていると説いているのです。

さらに「然れども毫釐も差あれば、天地はるかに隔たり、違順わずかに起これば、紛然として心を失す」とお示しです。その意識を超えた世界に人間の欲望や悩みや思い入れなどが加わると、本来円満な世界や心が忽然と失われてしまうというのです。

わかりやすくいえば、たとえば夫婦や親子の関係であっても、ごく普通に暮らしているときにはなんということもなく日常を送っていられるものが、たとえば子供の誕生日なのに父親が遅く帰宅したとか、夫のポケットから飲み屋の名刺が見つかったとか、娘に男友達から電話がきたとかいうようなささいな事件でも、ひとたび起こるとたんにお互い疑念がわいて、夫婦や家族の関係がギクシャクしてしまいます。

しかし戸惑いの中で生きているのが私たちの現実です。その現実の中で、本来あるべき姿を確固たるものにして、戸惑いながらもやるべきことを坦々とやっていく人生を送るために必要なのが信仰や信念です。

仏教の信仰は、神の言葉を無条件に信ずるというものではなく、変えることのできない真理がその対象です。生まれれば死が訪れ、日が沈めばまた朝が来る、人の欲望や都合以前のありようです。すべての生命のたすけによって私の生命が支えられている、道本円通なる世界を自覚することが、すなわち信仰の柱となるのです。どんな苦しい状況になってもポジティブに坦々と生きるために、信仰は強い支えとなります。それはいたって当たり前のことで、朝起き、ご飯を食べて、仕事をして寝て、生あるかぎりいっぱいの命を生きるということです。どんなに苦しいことや悲しいことがあってもむやみに動揺せず、本来のありようにまかせて生きていける力を信仰というのです。

つづく

十一月三日縁の会総会に於いて、書のパフォーマンスをしていただきました住職の同級生でもある書家の 土井 伸 氏が来年真光寺で書展を開くことになりました。当山に来られた際には是非ご覧下さい。

**期　間**　平成二十四年三月二十四日〜四月八日
**場　所**　真光寺山内

## 行事予定

［檀信徒］

**一月　三日(火)『年頭大般若祈祷法要』**
**午後二時より**　新年の家内安全、所願成就をご祈祷致します。法要後には二十五絃箏“かりん”さんの演奏会を行います。

**三月十八日(日)『春季彼岸会法要』**
**午後二時より**　彼岸のご供養を致します。法要後は落語会の予定です。

**四月　八日(日)『花まつり法要・檀信徒総会』**
**午前十一より**　お釈迦様の誕生を祝い法要後は総会を行います。

**◇婦人会ご詠歌練習日**

一月　十日(火)　・　二十四日(火)
二月　七日(火)　・　十四日(火)
三月　十三日(火)　・　二十七日(火)
四月　十日(火)　・　二十四日(火)
五月　八日(火)　・　二十二日(火)
六月　十二日(火)　・　二十六日(火)

**場所**　真光寺(どなたでも予約なしで参加できます)
**時間**　四月までは午後七時半より
五月からは午後八時からです。

# 行事予定

［縁の会］

**一月七日(土)　七日法要『年頭祈祷法要』**
午前十一時より　授戒式・月例供養
午後　大般若祈祷法要
お炊き上げ供養

※前年のお札やお守りをお持ち下さい、合同でのお炊き上げ供養を致します。

**二月七日(火)　七日法要『涅槃会・節分』**
午前十一時より　授戒式・月例供養
午後　涅槃会・坐禅・写経

**三月七日(水)　七日法要**
午前十一時より　授戒式・月例供養
午後　坐禅・写経

**三月十七日(土)　縁の会彼岸会法要**
午後一時半　受付
午後二時より　春期彼岸法要
コラアゲンはいごうまんの漫談

※平成二十四年より縁の会の彼岸法要を修行致します。花塔婆の申し込みは事前に電話等で申し込み下さい。

**四月七日(土)　七日法要［植樹祭］**
午前十一時より　授戒式・月例供養
午後　花まつり法要・植樹祭

＊七日法要は、昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約下さい。午前のみ・午後のみの参加もできます。送迎をご希望の方は右下の送迎時間にてご予約の際にお申し出下さい。

■送迎時間

□電車の方　JR内房線「袖ヶ浦」駅10時10分着

□バスの方

【土日祝】
・品川発9時30分→袖ヶ浦BT10時17分着
・横浜発9時40分→袖ヶ浦BT10時22分着
・川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着

【平　日】
・品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時12分着
・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時12分着
・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着

□お車の方　10時40分頃までにお越しください。

# 初詣は菩提寺で

## 初詣は菩提寺にて新年のご祈祷をしませんか？

年始は元旦より新年の安全・諸願成就を祈念してご祈祷を承ります。準備都合上、ご希望の方は事前にお申し込み下さい。

受付時間　午前9時より午後4時まで
法要時間　約十五分
祈祷料　三千円

※祈祷料には、木札とお守りが含まれます。

願意　家内安全　火災消除　諸難消滅
生業繁栄　心願成就　如意吉祥
商売繁盛　交通安全　合格祈願
厄除守護　身体健全　当病平癒
身体堅固　良縁祈願　安産祈願

右願意の中より一つもしくは二つまでお選び下さい。

# 新企画

「寺のある暮らし」を進化させ、「田舎のお寺に泊まろう」里山満喫プラン・のんびり修行プラン「日帰り坐禅・写経体験プラン」計三つのプランを計画いたしました。田舎のお寺でのんびり過ごし、少しの修行と春の自然を体感下さい。大勢のご参加をお待ちしております。

**◇お寺に泊まろう**

**●里山満喫プラン**　定員十四名　一泊三食付
**参加費**　七千円
**日　時**　三月二十七日(火)～二十八日(水)
**内　容**　里山散策・農作業・住職のお話・坐禅体験・鍋を囲んで夜参（懇親会）・朝のお勤め等々

**●のんびり修行プラン**　定員十四名一泊二食付
**参加費**　六千円
**日　時**　三月二十四日(土)～二十五日(日)
四月二日(月)～四月三日(火)
**内　容**　作務・聞法・奉仕
禅定・夜参・等々

**◇日帰り坐禅・写経体験プラン**
**参加費**　四千円　定員四十名
**日　時**　三月三十一日(土)
四月五日(木)
**内　容**　坐禅・写経体験
昼食　精進料理

※詳細、申し込みについて真光寺まで電話かFAXにてお問い合せ、お申し込み下さい。

**各種お申込み連絡先**
TEL　0438-75-7414（代表）
TEL　0438-75-7365（縁の会事務局）
FAX　0438-75-7630
e-mail　ennokai@shinko-ji.jp（縁の会）
satoyama@shinko-ji.jp（上総自然学校）

表紙／　旧本堂